



新夷巡名山

觀
吉田屋
初編
四

卷

庫書	108
5	30
148	169
148	番
148	數冊

~ 13
3093
4



朝夷巡嶋記全傳卷之四

九
三
集

朝夷巡嶋記全傳卷之四

東都 曲亭主人編輯

初輯第七

林阪乃牛奔車
榎の處此 崑崙佛

吉田屋



吉田屋

江三二廣光の幼君白鶴丸を肩まぬぐせ妻浅良井を扶掖く只管小走り。
日下種く足利のる学校に到りて彼如の学師坊長老は主家の親を
竊てきて彌君のうへに憑りて坊長老うち駈馬き白鶴丸を為す外姪
るにバ噫れどもかると此些の資とるるがざらんや。公やとく思ひを(と異
強むなくうけ引く。かひくくぞ舎藏ぬ志々(と申廣光亦は主君の
る。あらう又かかた尻もちの内を。そのこの空を瞻望しつゝ。昨日未
こは籠小巻後街鏡喋く。範頼被召寺ゆき自殺しぬる。廣通直

月長切編本日

能ホまへて七人死に殉ぐ為体又濱の宿の第へ討きの軍兵とて向れ橋太
左衛門治部丞ホふる悉討死しと幡太の方も猛火を包を灰燼とたつるのみ
ると今もさるるく語りつたひりて傳へる罵り騒げば均長老ハ望み毎小公
づると限りまけほど外ぬかさうぬかりらして竊に廣光浅良并小彼風言と
告まらせしよまきく白鳩丸とて隠し人遣せむ廣光ホも豫とまり。
まひらざるぬかぬとも又今さらのふ小若く只まきく哀とていぢりても
るためらるる。御孺君の死るぬ形も死せられ世に捨るつ消るひは独木橋洲に
臨み心地せり。かゝ思ひは秋もさる。羊のころまふなるぬきとも幸ひて異
るることちと。鄙語小の七十五日。世の風声もさるるたて果もゆきとさるる小
けし。その明の春均長老ハ羊の始乃并賀とて鎌倉へ来向し。正月下旬に
還来とてかゝ廣光ホを竊に招き致し白鳩丸ゆはせり外口とたつる。

此の定... 故ハ箇様とて... 朝臣... 幡太の
方... 共鎌倉へ進下せし... 刀野親子が罪被りて... 時ハ... 伏しその子
太郎時夏この足利へ流さるる... 緯の越委細とむる... ことよとるまきく鎌倉殿と
ゆひへさせらひけん有。一日景盛... 安達盛長の嫡男... 小宮守... 景光... 成盛... 景光
功ふえ所領よかえとて。乾頼が妻と子の命をとるまきく... 幡太の前を
赦しと。白鳩丸をゆりたりた。とて小件の一婦人の墓うくと枉死しと。免許との
詮るたよ似たり。情もつが範頼が逆謀はるは定るる... 被縛たえ兵を乃
るよ焼れ... 秋いとも不侵のよふるん。よや白鳩丸... ことと成長の後逆
意らるる。追捕の沙汰よるまきく。退出るまきく。この旨と又盛長... けしと竊に
示しゆひ... ことハ別人... ことと逆彼地... 逆苗の... 景盛... 密語ぬ
この比の人らるる。父子兄弟とて由ぬるる... 景光... 限りまけまきく。外... 小若

る。白鳩丸を郷に合意すと告白して死今さう多うが去年此が野天
郎がこの足利小流浪より符合せる又蒲敏八寛柱は係りて滅亡志願へども
死後小及びて後者の為とあるにありの和敏の舎兄が智謀を
出さうこれバ付の遺書も廣通が草せしよりさうありのありと定ふいへりとは
又景盛が言ふの叙はあつたらぬ誠は弟人廣通八身の死後まで君を佐
その智その忠情希く惜かる主後八人名其の伊豆の山寺の志の石を送せ
てよといひゆく涙をもちかめバ廣光夫婦は歎しさと又哀しと堪らざる
腕に袖の裏の玉をぐけくおれあふるべし。かゝる件の主後八世其の
西三年の謙倉の沙汰をゆく疑はるゆゑさうせむ均長老も廣光夫
婦のあやみ心おちぬく此後よりとくは合。謙倉を走まると日小彌君へとて
廣通がゆゑせしる金子をゆくと。八町四反の田地を購一搦の家作と。

白鳩丸を移す。まゐらせ廣光亦が外又西三人の奴婢式養を。耕作の用ゆ富
めあふむも。會へくもあふむ。春秋送くる。白鳩丸ハ移す。学校もく
習字向。又とえあむ。又さう小廣光を敵心ゆく。其書式論。剣を移す。
弓馬陣は漏れとせり。武藝を励まめり。なん文武ふのたがう。才長て度
明せざる。野もる。つら。至ては均長老も廣光も及さる。つら。遠くさる。
程は羊浪の。母をさう人を。白鳩丸ハ十六の春。まじや。迎へ。廣光ハ
豫て。均長老は相禪す。元服の儀を。名も更め。吉見。冠者。養
邦と稱。けり。このと死より郷の良賤この少年と蒲敏の。いへり。か
あしと謙倉の。沙汰。いへり。入る。小怪まを。され。其邦主。後。は。許。され。と
憚りの。閑の。戸。開。心地。に。偏。小。長老の。高恩。いへり。とく。父の。と。主の。よ。い
いつくまでも。仕んと。いへり。均長老の。この。疾。を。病。と。つ。な。ひ。と。いへり。

危く見えぬが、病と廣光の枕を足方つた添す。着病等雨を夕夕と下し、
定業より醫者も醫がま病と五十餘日、
紫下其生再説阿三郎の母親の病者、
辭去り大儲儀は立入り、
移りて等雨る、
中や田陽、
價小家財は、
と呻が、
碎くとも親の、
人領じて、
備へ馬を、

物もあつた、
蓬の髪と草、
債らるる、
中より子、
こゝに親、
委ね水と、
鬼とを、
る心、
骨大と、
あぐま、
順ゆく、

ちかむ如く。のりあるまゝ辨さるとたゞ至る隈もろく。辨舌るは、水小舟
 たり。まゝも博士態く。拙いこと成好むがごとく成さるののいと稀あり。又、
 うらも試されハ、ちかむあるまゝ光さるは、一日薪を積りてける車を牛
 牽り。鄰村へとてゆく途は一條の新阪あり。ちかむ此の山崩るは、この路を
 用たり。山崩阪と喚做り、左右は木立隙るまゝ。林阪ともいふ。此の山崩
 郎の牛を逐ひ、車を走せし件、及成登り果んとす。所程又積りて薪二三
 束を墮せしと、痕跡も追ひしとせん。牛を牽り、身口の慌忙たる走り
 下りて、彼薪成拾ひ取らん。とさる程は何とろちらん。牛を解き、車に阪を真
 降し麓へ輾び落るゆゑ、阪の狭し、車に重し。又登り、木立所三郎も、此成難し。小
 暇ろく、おちち右も成さし、伸し、車を楚と突留め、ちかむ小東とて曳こき、推
 つ、軀を推のりし。牛を牽り、楚と突留め、ちかむ小東とて曳こき、推
 下のまゝ、この薪力牛も、ちかむ馬より強健なり。つゞくと思ふ。此は満福を
 ちかむ。日健田大人誠々、こがちかむある。此成豫し、ゆゑに、かゝるべし。此れ
 ちかむ。つゞくと思ひ、けさり左に付けても、右に就てとろちらん。此れ彼を病、別は
 ちかむ。二四年、生活よいとちかむ。下は、びも安んず。此成問を、ちかむ。此れと
 ちかむ。この日、ゆらげ、かゝりけり。されば、浅江の豊六も、そとく、此親類も、ま
 ちかむ。豊も、死し、ちかむ。何せん、まも親子三人、それちかむ。妻の菜も、三年、あま、この病
 ちかむ。著しく、在る。かゝる死のうら。庄司、駿の一二、この女房、此木、此れ、才
 ちかむ。女も、死す。此女、此の才、ちかむ。此れ、一、二、この足、此れ、あま、此れ、使
 ちかむ。ちかむ。此れ、葉も、此れ、葉、此れ、葉、此れ、葉、此れ、葉、此れ、葉、此れ、葉、
 ちかむ。且、此も、債る。此は、豊も、此れ、葉も、此れ、葉、此れ、葉、此れ、葉、此れ、葉、
 ちかむ。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。

ちかむ。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。此れ、死す。

幸ふ。あまのりつと死人は貸す。その困窮を救ふ所習財のちとこは。
 守銭の癖とつらま。とまるとく吾侪富の小あふ後と和主小比呂のちとせん。
 そのかえは妻のちとく又遺はべた子もあふと六十の段へ足踏のけいんはさう
 移く物成惜んあるとた返へいひと死成ゆんとく。安不我同の要
 求はとよふこのりく回答する。これらふよりて豊六のあつまるの乃る毎小
 一二が滅心をひひとつて嘆賞。とま當村よ入とるま竹馬の友とちちをたよ
 あつと愚者を救ふ人ある。とまとあは高利をうけく債と苛とまに
 庄司殿の二三のまが一郷の君子あり。汝も彼人の恩義成るまをそといひ
 つ涙さうまが親の死成汲とある阿三郎の身小い。いそ恩恵小報せん
 とあつさる日もたつとまが。こが養力あると死免。後よあひあ。恩人一二
 ねの田地ハ水口は大石あり。く用才の仔とら。とまとま彼石とま相と
 輒々後久くこ死成と死竊二件の石を除く此の資ふたのまぬべ。とあ
 印とふせひ決めく親ゆの告げ夜をまめく。彼樋口へ赴ん。おまの百人あま
 しても運動がうとええて半ハ水土木埋とる石を抜死引起く。旧のま
 運へ。十町あまると北のうまの谷底へ落く。とまほとりあまの社客們ハ
 件の御言小教馬死えあふを遅くと起出。この分野は果まの只神の所
 為るまへとく一二が幸を祝せハ緯遠近は隠とわく。不思議のまのひあふ。
 さまるとまの阿三郎のるのまぬむらに却説大濬の北盡知小鈍佛といふ
 女僧ありけり。こが菴号ハ千日菴。本まハ釋迦牟尼如来龍華説法ハ木像
 仏二ハ定うまねど全身黒漆ゆ。玉眼生るまの。その佛壇の背のま小年あり
 こは榎樹あり。幹のま十圍のま。枝下九尺むり。移のま朽
 虚心まぬ。より後ハ壁を穿く。この樹へ廟をさし掛く。件の虚を厨子と

月見の編巻目

六

老ん彼木仏を安置せし。八里人ホハその数奇可愛く。榎の虚の崑崙仏と喚ぶ。做
 隨ふ名まのくろりぬか。この比崑崙仏が正しく。経法続めんとく。老弱群集途より
 あへて。現奇好むハ世間の多ぶ人の避るる。庄司駿の二三が樋の口あたる石
 のふと。この続経佛の。此の味く。そのひ罵る。葉も。こま。成。成。入。使。て。一。夕。日。子。二
 のふや。十日菴の心仏が。俄頃。又。中。中。せ。あ。ふ。と。い。と。ま。く。ら。あ。り。あ。り。の。う。か。の。類。を
 さ。む。の。速。也。吾。情。ハ。年。末。云。流。る。る。浅。草。寺。の。現。世。音。を。賦。る。く。憑。こ。せ。れ。ハ
 病。多。の。う。ら。み。せ。一。日。も。大。慈。大。悲。願。云。と。定。業。の。う。が。惜。む。び。命。中。付。り
 後。ど。の。故。又。朝。夕。の。煙。り。も。細。ま。び。所。天。や。子。が。い。う。勤。勞。を。く。は。り。こ。れ。と。い。は。し。ら。し。

少。も。ま。は。胸。苦。し。ま。病。痢。ぬ。ゆ。や。ま。う。と。悩。む。こ。も。か。て。も。生。ぞ。た。り。こ。が。為
 う。と。せ。ば。ち。ら。ね。ね。又。大。往。生。を。遂。さ。せ。る。人。又。助。る。べ。た。り。の。る。と。一。日。も。た。や。く
 お。こ。し。ま。せ。り。所。夫。や。子。の。苦。練。休。ら。ぬ。人。と。念。ふ。と。年。幾。経。て。稍。本。復。れ。趣。た。つ。

か。ま。い。い。と。浅。草。寺。へ。集。り。む。と。思。ふ。と。も。ま。げ。旅。成。せん。力。ハ。信。り。む。と。い。や
 力。ハ。信。り。む。と。第一。又。足。が。う。と。の。意。因。由。は。ぬ。は。疎。も。あ。ぬ。仏。恩。成。疎。又
 三。部。受。あ。へ。む。の。富。む。人。ハ。苟。且。の。の。借。り。も。馬。輪。と。ま。の。が。や。う。た。居。旅。成。む。と。い。は。し。

さ。で。ハ。功。徳。も。為。る。所。べ。う。さ。う。戒。ひ。か。た。ひ。の。の。ま。ま。と。い。ぬ。あ。ま。な。ぬ。と。て。た。の。て。ふ
 る。の。い。へ。た。ま。り。と。も。さ。ま。ま。と。い。む。う。と。ま。り。某。母。の。代。ま。成。け。た。り。ゆ。ん。彼。此。の
 債。然。の。受。と。う。と。い。は。し。が。路。費。ハ。と。い。は。し。と。い。足。且。り。水。移。る。と。二。四。日。陸。と
 し。ち。う。ハ。六。七。日。ぬ。へ。り。ま。ん。と。い。と。易。一。登。み。お。あ。り。て。翌。未。明。小。首。途。成。つ。つ。ま。い
 ら。ん。と。思。ふ。と。い。う。ち。あ。く。笑。む。お。ん。才。業。り。く。多。の。う。が。吾。情。が。み。が。う。と。ま。る。ふ。い。は。し。

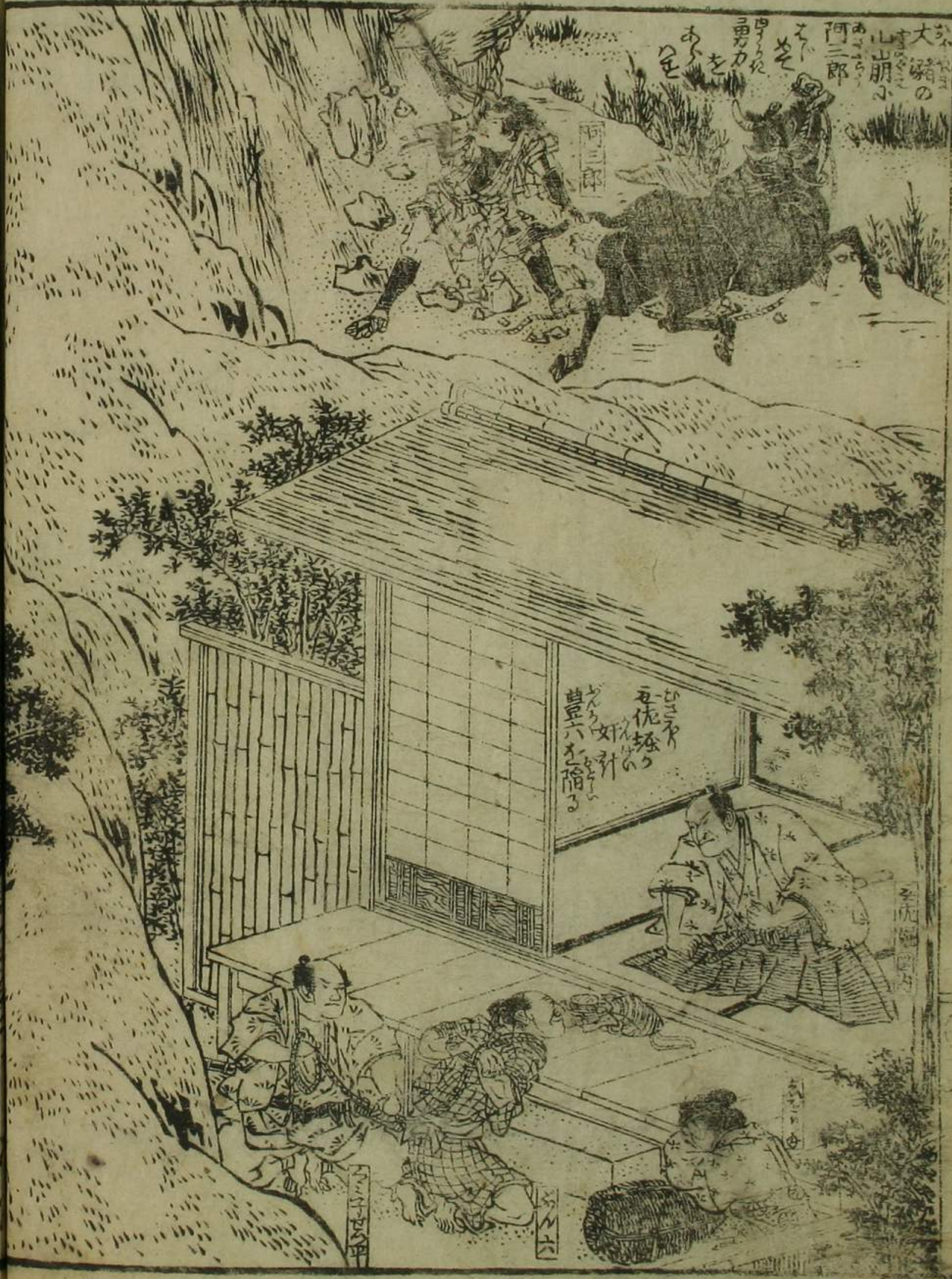
さ。ら。と。と。て。水。移。の。好。う。と。い。う。と。う。や。日。う。と。二。四。日。陸。と。い。は。し。も。陸。と。い。は。し。

淡。う。ま。み。ち。い。そ。が。い。く。あ。ま。も。ち。成。る。ま。る。ひ。そ。と。論。を。成。業。く。母。の。う。と。も。



天の
推
六
山
馬
と

昔
子
孫
盛
明
也



大崎の
山崩
阿三郎
を
引
上
げ
る

昔
子
孫
盛
明
也

又豊六小云々と告ぐ者。の暇。我にひか。りぬ。心。を。よ。り。蓋。を。同。行。也。之。行の准。値。と。の。つ。その結。朝。云。病。なる。浅。草。寺。を。投。ぐ。首。途。せ。り。さ。は。符。小。鈍。佛。の。獲。れ。虚。乃。崑。崙。仏。も。ま。き。く。経。流。統。る。か。く。く。高。精。の。老。弱。男。女。日。ぬ。ま。り。く。駭。く。田。と。も。の。つ。ど。暁。と。も。の。つ。ど。只。捷。徑。我。れ。先。ゆ。と。千。日。菴。へ。詣。ま。り。し。その。羊。乳。由。て。手。鹿。豊。六。が。麥。畑。と。い。う。踏。荒。せ。ぎ。置。菓。れ。と。も。き。く。り。の。ほ。頃。四。月。乃。中。浣。め。く。秋。小。鄰。と。名。青。麥。の。登。り。を。十。分。の。つ。ぎ。一。穗。也。惜。と。思。ふ。と。り。今。茲。行。糧。也。粟。れ。腹。へ。と。も。ゆ。ま。の。び。く。千。日。菴。へ。赴。た。り。通。縁。由。を。告。ぐ。と。制。り。あ。れ。と。口。管。の。ち。歎。く。我。龍。佛。尼。の。ゆ。め。あ。ぶ。ぞ。班。あ。る。齒。を。見。し。く。呵。と。う。ち。笑。ひ。あ。ま。衆。も。死。入。り。ぞ。あ。る。この。世。假。の。宿。ろ。う。小。境。一。畝。二。畝。ろ。う。麥。を。惜。ま。く。佛。へ。詣。人。を。う。ら。ま。負。小。禁。め。り。と。い。ふ。ふ。そ。や。和。主。が。ぬ。れ。悪。入。る。く。地。獄。の。鬼。ハ。冷。を。く。る。ん。あ。ら。は。必。前。生。の。提。婆。ろ。う。け。の。守。衛。ろ。う。ん。さ。は。佛。敵。の。度。一。げ。に。疾。迦。と。も。と。書。め。く。再。く。と。り。ゆ。あ。は。こ。百。不。豊。六。ハ。つ。と。く。腹。の。こ。ろ。の。こ。ろ。を。了。却。聊。あ。は。し。あ。は。し。一。言。の。辨。の。と。具。ま。り。と。う。ま。り。く。老。の。び。く。又。集。結。の。群。集。小。紛。れ。て。提。の。虚。を。六。規。ふ。と。而。三。日。小。及。び。一。ふ。既。は。る。と。と。ろ。あ。り。今。ハ。か。く。と。思。ひ。決。め。る。その。次。乃。日。ハ。外。山。ち。ろ。の。柴。我。獲。る。と。く。宿。野。杖。杖。が。亭。牛。た。つ。ろ。う。山。を。下。り。て。件。は。菴。又。赴。け。彼。此。の。老。弱。男。女。剋。陝。を。ま。で。充。満。く。出。る。の。の。の。退。が。く。入。内。り。の。を。進。ま。く。後。々。彼。我。推。此。と。推。ま。り。と。い。ふ。ゆ。め。く。提。房。賽。法。ハ。雪。吹。よ。ま。は。雷。の。こ。ろ。と。齊。一。念。ま。る。仏。名。某。種。小。聚。く。此。は。他。く。り。豊。六。ハ。外。面。より。左。小。立。右。小。遠。り。く。裡。乃。中。を。空。規。ふ。菴。主。の。尼。純。仏。ハ。佛。小。對。ひ。高。胡。床。く。香。と。燒。經。と。漏。つ。提。う。け。春。法。の。落。ち。方。小。心。我。配。ま。り。目。口。又。暇。ま。る。を。け。り。時。分。ハ。ゆ。と。豊。六。ハ。勢。力。小。猛。く。引。提。う。け。谷。の。柄。を。り。く。立。こ。き。人。を。撞。こ。た。か。れ。こ。け。く。虚。の。尾。に。り。小。進。道。は。は。長。柄。の。谷。我。杖。め。り。て。四。下。を。信。と。疾。視。し。と。い。ふ。元。ハ。さ。し。え。高。精。の。老。弱。男。女。劇。駭。た。く。

めく。再く。とり。ゆ。あ。は。こ。百。不。豊。六。ハ。つ。と。く。腹。の。こ。ろ。の。こ。ろ。を。了。却。聊。あ。は。し。あ。は。し。一。言。の。辨。の。と。具。ま。り。と。う。ま。り。く。老。の。び。く。又。集。結。の。群。集。小。紛。れ。て。提。の。虚。を。六。規。ふ。と。而。三。日。小。及。び。一。ふ。既。は。る。と。と。ろ。あ。り。今。ハ。か。く。と。思。ひ。決。め。る。その。次。乃。日。ハ。外。山。ち。ろ。の。柴。我。獲。る。と。く。宿。野。杖。杖。が。亭。牛。た。つ。ろ。う。山。を。下。り。て。件。は。菴。又。赴。け。彼。此。の。老。弱。男。女。剋。陝。を。ま。で。充。満。く。出。る。の。の。の。退。が。く。入。内。り。の。を。進。ま。く。後。々。彼。我。推。此。と。推。ま。り。と。い。ふ。ゆ。め。く。提。房。賽。法。ハ。雪。吹。よ。ま。は。雷。の。こ。ろ。と。齊。一。念。ま。る。仏。名。某。種。小。聚。く。此。は。他。く。り。豊。六。ハ。外。面。より。左。小。立。右。小。遠。り。く。裡。乃。中。を。空。規。ふ。菴。主。の。尼。純。仏。ハ。佛。小。對。ひ。高。胡。床。く。香。と。燒。經。と。漏。つ。提。う。け。春。法。の。落。ち。方。小。心。我。配。ま。り。目。口。又。暇。ま。る。を。け。り。時。分。ハ。ゆ。と。豊。六。ハ。勢。力。小。猛。く。引。提。う。け。谷。の。柄。を。り。く。立。こ。き。人。を。撞。こ。た。か。れ。こ。け。く。虚。の。尾。に。り。小。進。道。は。は。長。柄。の。谷。我。杖。め。り。て。四。下。を。信。と。疾。視。し。と。い。ふ。元。ハ。さ。し。え。高。精。の。老。弱。男。女。劇。駭。た。く。

月夜抄 巻四

あましとくとのふり小豊六声をありて人びる吾侪我中む欲現正法ゆの不思
 後ほ猴状起ても阿の陀でも木をりて刺さる佛が鏡経志のふてあらんや。こま
 この佛ゆあるあつちのうらなれ夢細を踏荒さる糧を失ひと禁めてのりし類
 しま若主ぬ歎くといふそのり又聴きていふ歌外道と罵れ損く恥れぬ
 かせし。淡江の豊六るるよの各告げぬもあらん。いふ木佛が経経の奥の院と
 推用して天明の醒我醒んぞと合する芥子よりる皆せぬ慌忙たると復して大
 悪人物作るやと殊数をひて佛退けんと考りし物もやと豊六の怒り果て突倒し
 因りて塵小跳入つて芥子揚て下ど打うれいれい脊より。大なるこの鞠小むと
 多る蜂房破とあつとわけて数百の蜂の子群れて既のうふ散かどば人とこれよ
 ちて目こきひく。ゆら涙びのぬ出る我曲豊六息よ呼びとあ蓬死人のとあらん
 仏とあつて日よと擲財を惜と甘びその本體を蜂とてん且びのてかそとよく

あつて迷執が本た根の塵小早晚と似我蜂が房を造りてその子大死くろる隨ふ
 ながくと鳴つる我佛が経我福多ふといひあつてせし猿を揮る菴土の尼が假を便これと
 名けく賣僧とのふ支を好ましく木の塵を厨子ゆくも豫てより。その底意ありて
 るまんちるまふ仏の脊のうろ密るんと塗ちるく空籠は蜂が結引く物とてこ亦
 まるべし。夫正法ゆの不思議は。ちるちん然不思議未りといく奇小取合のけひん
 かても迷ひるるびやと声高ちふ解喻せぬ衆皆又呆果てぬと奇一小勝我
 鼓現大踏ゆのさるめあつて浅江の豊六ハ一畚量あるとのとそと入りの又も眼前
 この働れ小魂消くともちるこの月一旬あまのち細ゆうさび植つけせとてうらや
 蜂小賽積ハ針の供養あるりとせぬ悔れろをまてけり。罵るもあり。笑ふも
 あつ。調子外に此声よる四言と散動ける。さて一も菴主純仏ハ五十餘歳の老
 尼ろる。豊六ハ突倒さるる輒く起ゆるなり。鄙語小い泣面と蜂小費れく

苦痛又堪まじく俯くもふ阿容と法衣の袖を毘るひく。と天窓試押てそ
 さもこそあふら。豊六はなより坊やより。斧の柄をりて推動。菴主も吾
 侪と悪入えと。飽ちる小罵りが実仏とのりの和主がとく積と釣る。敷法
 宗ととるや。あふらば虚言甘ぬめが死後地獄へ墮すはとて。方を板付との
 づらん。陰謀搢くあま死んよ。假も仏と拜する木像の棒をり。とと免く
 破却せされも斧の響みおのづら。倒まると足取損ひのみな。とあるまじ
 るふもまじく且く凡夫又拜せぬ不再び利益死より戒示。あふらあふら
 ざらん。さあふらと。あふらと。あふらと。既陰搢する。あふらと。斧の柄と耳の
 邊の衝るうらうらと。数回體懲せとも。あふら一言も応せまを物のてく小尻をさじ
 龜のどく小項我縮り。る侘はる陰謀と。衆皆吐と笑ひ。あふら豊六もうち
 笑ひ放し。あふら奴もいとも法師を老安ん敵もせん大人をばは疑。あふらと。

つたて。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 突立たる斧を揚げて。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 寝衣被れ。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 やあ。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 市の果。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 よぬ。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 世の胡慮。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 葉のひ。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 人の只。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 僧の。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 とも。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 る。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 さふ。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 ぞ。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。
 ぞ。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。あふらあふら。

此は晴と配をいふゆゑ違つて虚のこまの紙窓より親峰の花去るを禁じ
 ころしつゝあつたかゝる人々彼此人が聚合して死なば彼莫成護て多せ元法師が面
 皮戒剛刺のごとく熱腸の冷め仙も喧嘩の側杖も足足を損ひ多しおそれるが
 らも吾人の交代又立びて厄のうた小慶囉を輝かすを痛くけしとの人のま
 又うち笑へば葉舟の真顔めて物俵も死して百ある千劍旅神にも衿宜の習い
 かたふも佛もあつて侍をゆるめ求め傷ひらるゝと由は過失の懺悔も
 勸解も罪いとあつたべし加以純比丘尼への朝夷の眼代なる結城女へ小
 由縁の人は若くは菴を開く恥我雪め憤我散りゆふ似くことも又それ
 後の祟やあらんとせむ後やとくげうて死ねぬか多めひぬといへる豊土の冷
 笑ひそんぢれよりこれよくまれり眼代結城國內や多男児をうる二人
 あり小頭太小珍二則れん又その乳母へ純はあり死その比眼代結城女の内の
 室方のりやひつゝと寝寂しとけいん子どもの乳母は構合へば乳母
 夫とも知くあつたへひくな我演そを眼前妻の女が段髪残か入前かこけり結城
 と豆不劇發死く鞍の杖を贈りたるのびく小勸解へ件の夫へ財折互富
 夫あれども女房の主ゆゑおまじまもはむかしく和睦へつゝまらぬ這奴へのもの
 厄ゆるといふよ其へ他郷へ移りて後やとくまたてまらぬかては口官のゆに
 とどひの隨ひひ放り理ゆへ勝とも勢利は肩より上様へ執を執らぬ彼死ぬて死ぬらぬ
 約束つゝ不彼乳母の青道ゆゑなるゆゑも針も困るを食せぬ形のどくを昇を
 締むる居る食ふも結城女の賭ひふよとて彼夫が子の上様を又欺
 聖い母を便りくまへけいんも結城女のどひたりも切平の名けり懸る僕人
 今その被刺の出立入るりこころが丁年の比あつて数五十二及べる人をおかす
 まるゝのほどかこつたや眼代は由縁ある厄あつたと入よけれぬとぢちの侍

月見の扇巻四

文注所ての處とびに汝竊は彼如起死民の父母と信やが意欲をじて件の
 袂を豊上よとせよか。と仰ふより。みちのそとく、まつのさあつ、のどとを
 選りまがてのさろく我為方へ告めと叮嚀し、鏡示して唐櫃の蓋推用くせ。
 昔錢十貫、文堆まき積む程、葉の文小呆惑ひく。さうたぐく、とて受
 納せ、その方ざるたの尻端、止舟とまきでも菴を鬧せ、おん外口あらんうと安ま
 心せ、しりよ、あひうけろ、死賜りの有く、たまぐ辱ま、と受く、と死中、こゝ死
 中ら、こらちちむひ辨さく。昔門の槐小昂も、病は、良人か、還る小程、ゆ
 且、あまひ、後と、つが、既、うち、掉く、否、む、づ、う、た、り、み、ぬ、あ、ら、ま、良、人、の、田
 ち、こ、の、女、房、か、小、遊、と、せ、が、則、豊、六、よ、と、せ、一、小、こ、と、異、る、ら、日、の、暮、の、り、ぬ。
 眼代も、た、び、う、こ、と、お、ま、の、さ、ら、め、五、口、の、ま、う、と、立、あ、る、袖、を、さ、さ、さ、さ、と、お、り、と、あ
 う、こ、く、お、ひ、と、ら、の、お、湯、の、進、ら、せ、と、よ、う、来、ま、せ、と、縁、端、小、勝、次、空、大、と、

目送、び、萍、平、の、遠、け、小、後、者、を、お、く、走、去、ぬ、わ、く、と、その、日、由、入、相、小、山、寺、乃、鐘
 音、つ、れ、く、も、の、林、へ、か、く、信、比、豊、六、の、脊、小、餘、信、社、試、負、て、か、り、来、り、あ、る、信、と、び、と
 葉、の、の、緒、も、掛、く、荷、代、釋、せ、盤、又、汲、く、さ、う、も、信、水、試、踏、く、豊、六、の、汗、推
 拭、か、み、拭、り、と、肩、の、塵、埃、と、う、ち、拂、ひ、草、鞋、と、死、捨、兩、足、を、洗、め、く、軀、を、牧、遣
 せ、地、元の、居、より、人、胡、半、の、積、る、袂、を、え、え、り、く、彼、の、何、ぞ、と、研、じ、ば、葉、の、の、
 う、ち、笑、し、も、つ、泣、び、多、う、。嚮、小、眼、代、懸、堀、ぬ、ら、る、平、群、萍、平、と、い、の、使、者
 の、り、て、お、ん、身、が、ま、の、の、働、死、我、傷、あ、の、と、大、く、る、ら、び、よ、ら、ま、く、菴、の、審、袂、を、
 悉、召、と、り、ま、く、彼、昔、來、今、と、荒、さ、さ、く、信、損、試、貫、ひ、あ、の、ま、る、口、杖、の、如、此、こ、え、箇、様、こ、と
 ち、ら、の、ま、く、昔、は、不、豊、六、眉、う、ち、聳、れ、そ、ま、つ、つ、や、く、ま、ら、る、が、ヒ、縁、研、や、さ、ら、か、
 公、こ、ち、ち、信、の、つ、ろ、り、と、地、仏、か、非、分、を、外、け、り、吾、信、試、貫、美、甘、ん、と、る、の、く、か、奴、方、存
 文、注、所、へ、召、よ、せ、て、對、決、し、その、ち、小、の、袂、を、ま、つ、る、べ、た、る、の、な、信、は、千、日、菴、乃、

賽後へ没収せしめ公の又その後を豊六へめり密の使とのつその義小稱
 のまゝと憚あるところの謙倉でひとり人殺し殿あるが親疎も
 悪代懲を禄め賜りてん船堀め名小似せし會ることにはけしむら
 出する程非式平と野の法をやらんや。そのころは情由ありまわん。あつて
 推辞と聽さしむる。還ほまが使と引とちかひひらそのゆ
 らめり。あつてつるなつ後が良人のかたりまはま。留めると眼代
 のつらびくおまをとも良人の留めは女房と遊ませるが豊六より
 せしめ異るつとどこのひらけとせしめ又田舎の今更後悔をよ
 といふ豊六沈吟どももあつてもその後とそが随ふの受がけけとあひど
 日ハ暮り翌の早きく文所へりてまて返さんど一夜とまのあつり
 物餓鬼の糧を不脾虫が欲生平のまらうで熟睡し。り盗さるるが難儀

戸棚の消我固うせよとひらけ法をとり納め夕餐くくむろ共小お夫婦
 夜とちりり睡るねがるのどひしむ阿三郎がわける日を倭く明とちりり夜
 るま短く。その暁く目睡夫婦は常とま朝寢く。日の弁る比とり
 見る豊六の帯引持びく慌忙九門の戸を開は残遅と捕はれ大勢誘はる
 せとむくくとまへり推し曲ミ十日菴の本を毀菴主の尼を打仆しと緯の
 紛さる賽後を棄去し大盗人を捕まると眼代の令ありく向する索致
 かれと聞くと声は葉のハ敬勇たえり。まり出が野兵亦は推禁らさくよと泣
 妻をさくは豊六ハ騒だる乳をたき些退たて小勝我衝たすハ理不
 某の十日菴の純仏を罵り懲せしとあはと法を盗るおぼえる。このせよ
 あへん各を揚す。背三四ち平め陳むはとくむらさんや論より澄拵合獲
 せんといふそ中早雄た馬両三入彼此と撈里速と物もは戸棚は預と

たはハのとも怪しと戸を置放せぬあらと志十貫の狭列ゆと豊六が目先へ
撲地と投るべこ直でも汝の盗むるとあきま笑へ葉よハ遠は泣声あるまじく
その狭の箇様と如此とこのふあさく眼代とるあつりといひとく隙不被内索
係延しく異口同音小汝何の功ありといづこの日小文注所へはるく賞銭を
つとふのいふよあがふあさくおとせと罵りあはせ豊六をともと縛り
豊六ハおひげのた寛枉は澄据の狭地獄の沙汰ゆかりとあり謀とをけり
又よたハ再び争ひは逐立りゆとく出く由く良人のま葉よが力を投かれば
戦兵亦不突くさるまく轉輓び携りて賂姑りり返に草深るゝぬ郷乃索
穴蹟も跟るゝ辰唯雄離る朝暮のるゝのて樹とをる辰ひに砂るゝるゝ長ん

初輯第八

帰郷の野邊送り
復讐に記大刀

肥堀園内が戦兵亦ハ豊六を搦捕る。馳て文註所へ牽りて来る。謙君のお軍をいめて
猪四の守護の正廳を公文とす。云云のり成報知く呼の裡へ推とせり。ふとたは又安房
四朝夷郡のうち大瀧満禄健田の郷も海厨五郎満禄信俊の領所。信俊ハ
この年才在謙君のりし久郷の老黨肥堀園内一郡三郷を別當しく賂款を収め
賞罰と主人威持領主ハ異なる。と。齡六十小らじとりとも慈母の心絶くるけ
むべハ死んでると奴のとて賂さるゝたむと誦さるゝが是れ用ひて利口不棄り
得失を辨し奸智と逞しく利害を論む。民の類ハ少くも移どその性素より利
さうく世才ハ長う癖者うとハ領主ハよろびごろる小たる。めとのミせふふは
却堀園内ハ尼が子たハ切平亦死後つゝともその席はつとる。ふ食りるとも小頃
首せり。そのとた園内ハ安米を引よせ喰ふ。估とんく。たはれ豊六ハ汝ハ一昨故も
るく。千日菴の靈佛がうち碎死女僧純仏が打擲して百絡の殘と盗はそのり
謙君のお軍をいめて 公文を建てるに 安房の 謙君のお軍をいめて 公文を建てるに

と云隠れる。尼又祈す。廿一八則擲捕せり。豫て我我るたりのと思はざり。せ
かくも。小大膽無敵の所行のせ。速は首伏せよ。首伏せよ。と責問の豊六の
頭我擲す。彼でいへども。その究め。何証言。盗ハ勿論。彼木像我破却せし。
ゆり。その故。如此。又彼落ハ箇様。と。と。麥畑を荒。その
起。より。純仏が。体平郡。萍平。ぐる。い。いと。よ。我。あ。ど。奴。甚。口。強。
往還の。の。小。麥。畑。を。荒。さ。す。我。怒。と。せ。ぶ。る。ど。く。ま。う。う。入。祈。さ。る。純。仏。を。外。は。は。ま。
甚。了。僻。る。も。又。彼。菴。の。本。き。が。注。流。統。と。も。の。ま。ど。と。も。汝。が。管。さ。さ。た。あ。く。奴。道。
場。我。開。く。老。る。尼。を。打。仆。し。靈。像。我。傷。ふ。と。悪。虐。ひ。の。守。屋。と。お。ぼ。え。又。う。
夥。兵。後。僕。は。平。郡。萍。平。と。い。ふ。の。う。い。日。を。入。る。一。郡。の。眼。代。る。と。い。ふ。使。ふ。
奴。婢。と。い。く。そ。む。く。そ。も。あ。ら。ど。と。う。も。く。ち。う。た。里。入。ホ。は。名。を。入。面。を。織。ら。れ。さ。る。
の。と。一。人。も。る。た。り。の。我。汝。が。虚。言。い。と。く。拙。明。く。地。小。盗。は。よ。り。汝。の。く。苦。痛。と。

勝。て。一。威。を。あ。く。推。せ。し。も。此。中。も。ち。ま。は。大。人。間。又。上。小。在。ま。方。の。科。以。説。し。と。ま。
何。所。然。り。或。中。上。平。郡。萍。平。と。い。ふ。の。内。内。小。る。い。是。則。拐。兒。之。妻。公。認。す。と。
之。骨。相。書。と。の。く。素。め。た。者。且。比。と。い。ふ。ゆ。は。又。千。日。菴。の。尼。が。る。其。末。め。く。
彼。佛。像。我。破。却。せ。し。と。い。ふ。為。体。ハ。その。日。系。指。せ。し。もの。ど。も。が。止。り。登。入。の。ハ。彼。
此。人。を。召。聚。合。純。仏。と。某。と。對。決。せ。さ。せ。る。一。口。願。し。死。ハ。この。と。の。と。い。ひ。や。る。果。を。
船。堀。の。業。を。破。と。う。ち。鳴。じ。い。ら。と。い。ふ。と。く。過。さ。え。汝。が。誑。を。受。ハ。受。罪。疑。ハ。一。死。
の。ろ。ろ。が。登。入。も。召。聚。し。純。仏。を。も。召。下。甘。ん。既。は。盜。法。の。罪。が。あ。ら。う。正。一。死。證。据。
ろ。一。と。い。ふ。は。よ。その。他。を。事。ん。や。り。三。百。う。ま。い。の。ゆ。く。實。と。吐。べ。く。と。い。ふ。と。く。鞭。と。
敦。園。ハ。純。佛。が。子。る。ま。け。若。堂。切。平。す。ろ。ろ。と。縁。能。も。と。内。り。と。死。さ。る。豊。六。を。
推。伏。す。母。の。死。我。復。き。と。い。ひ。終。と。答。ふ。ち。う。た。我。い。と。う。け。声。高。く。い。は。し。る。情。む。
べ。豊。六。ハ。皮。破。且。肉。披。け。脊。ハ。杖。の。苦。知。糸。松。よ。か。侍。は。彷彿。り。答。は。數。ハ。二。百。小。

及之皆とれたる昏狂一の毘兵ホこを引起しと面水水が沃たけよみ飲せると
 廿一且と息牛れともる何人ともなる死たあべ。船堀園内へとんと呵と
 うち笑ひ這奴陽滅を志するも。又責くひのほへと日傾たぬけり。已
 るん嚴く獄舎小籠げじとのふ毘兵ホ立るまで片息たの豊上ハをよみと
 衣を引起し獄屋のく入おく去ぬさほ程又其母ハ歎たひのよと枉屈乃
 神を報る佛又唧ちのうぐ良人と救んとせんとこのり死親族中へふれは庄
 司囃の二三は相禪の村長然因り。船堀宿所小赴死一通の願状の恩免を
 乞ふけまじも被切平ホこを阻て國より肉へ入る。あつち歎けハ眼と腫じ
 汝亦何とてろなる豊六が首伏の科よあるその妻も子も同犯同罪と成死は
 赦さざりしと志するも推事とる大膽又再て急を擧げ擧人先期せし馬もの
 縛成へうやあざざん二の葉の或は親は種りく復いあを時運天小まほし

つうち歎たてを口を送りぬかるとと六十早振神るるさぞ知らしむる所
 三郎のゆる日小大儲と啓初と上総下総を過るる急ぬ旅も舊里の親と
 いそがしく三日四日の程りして浅草寺へ詣りけりその夜ハ通夜りともつて
 母の又父のなる祈念垂安時中離らむその曉とよもつば目睡し夢の中ハ
 極と昇向人又あひいつて光と後何となく悩うち驛たて安んぬる佛前に
 合掌とて兩親安泰息災延命造悪消滅二世安樂大慈大悲と念のよき下
 向又赴く程又糸屋時より附さう小休ひもせは走且下り天幕かき此翅の
 小鹿の角の束る同は如くもあざざん六七日の旅然と。只東ちく来小なれ
 里の覆ふむある鳥のさがる声と常ためむ斜又たあま一日此教もかき
 中ハ小なれさくむあつちのころは只一步もややくかへり二親とんをよ
 すすむ進む前面よりあやびたす桶を擔りしと解洗衣うち被つ昇



阿三郎
途
親の指

ともて入るる力のあらま浅草なる観音
 堂の通夜ぞ一時の夢も似ては不雅と
 老らねと胸澄まして迎つてまふ彼々の重
 中阿三郎なりと欲とのあら正しく三
 ろる之棺を昇る合壁の甲をあらはれ
 いろふとぞひき立てて立在る棺を昇る
 昇るといふ聲皆声を低くして阿三郎
 歌幸はしきまふむろくろくありこれ
 ぬ縁故因縁あはれ路傍のひかじ
 和郎の首をのこすこととて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱

ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱
 ともとてあつとあつて送葬の俱

返還へ死名の決りを受たしと推辞ハ二三語残ち挿否返さず由死情由也。
 和郎との手拭を認めりやと問きて下りて公つ死現と云ひぬる比、矢へふ小
 よく似たりといふが二三うち微笑とさもあるんこの手拭ハ和郎が衣衣とむら
 色ゆく吾侪申定ふ小認めりたるも、あつたよぬる夜桶の口より大石滾て谷へ入る。
 その跡はこれ後々あり。おのゝ和郎が骨骨運く身長高しちからあるべし。
 正しく和郎が孝心と愛させぬ鬼神がこゝりて負財を償せ又手拭と其知は
 送してそとと吾侪小曉じぬ神謀はあらんさうんと思ひはけしと入る生屋
 への手拭を流めたる彼石既よるるのまじき思より年々その利のあらん小貸
 へは物返さざるとも免毫たさ下損と云ふらむと推辞と云ふと鏡喻と云ふ言
 當ふふむとされども陰徳實小陽報あり。阿三郎ハ今さうふとせしと、我のらむと

まく、かくまで小愛さうと云ふれおのが幸ひんと云ふと、恥て件の恨状と云ふと、
 二三の久後の、さへ小説示し吾侪の魂もへん、和郎の被殺を母は、まじき憐れ
 起程の準備せよ、それも今宵へはささしと、怒り、ゆるさず、且とと耳語は、らるる果て
 立ちこれゆく時と、暁送よをさむ、と云ふ、さへ、夢の青穂は、背影、さむむ、雀を、時ふ古
 巢へ、おのゝ阿三郎の母の哀傷、さるる、推する、まじき、告ん、つら、り、や、い、て、慰へ
 尋思小、白目ハ有也、无也、の、関と、人、月を、憐れ、まじき、と、や、軒、ち、く、来、よ、け、ま、皆、門、を、
 閉、まじき、と、ま、ま、入、り、只、今、め、り、ひ、と、い、ふ、声、を、て、母、葉、ひ、る、障、子、引、開、ま、と、出、門、三
 郎、秋、待、ら、び、ら、と、嚮、は、折、よ、く、め、り、あ、り、せ、ま、棺、を、送、ら、ま、じ、ひ、つ、の、四、部、の、畏、小
 ち、や、せ、ん、お、ん、方、ハ、又、今、ま、の、終、焉、朽、を、了、れ、ん、助、也、と、他、の、ま、ま、門、戸、引、開、て、こ、の、入
 と、い、ふ、正、しく、哀、傷、と、と、ま、乱、し、は、け、ま、さ、る、く、と、さ、ら、な、め、り、は、さ、り、し、つ、の、阿、三、郎、ハ
 且、蓋、を、恭、しく、手、を、膝、に、置、て、ら、る、の、旅、宿、は、ま、ま、の、枉、死、緯、の、始、末、ハ、纏、り、を、

朝恩特は浅くはるる早晩はるる傲す。わん行状はるる一うさき遠の朝
 敵とるるるる東軍使頃お推しませぬ守治徳田の隊成うち中ぶるるる
 主後七騎又斬りてはるる朝絵侍共母そかうとて越路と投
 湖水の畔へうちお入らぬ大お入るるる矢は内兜と射させつ。寂期はるる
 粟津野の残の雪と消るる実子元暦のそよめの年正月十日はるるあん
 おん為ハ母君の胎内おまじし免素よるる玄馬ハ丈夫ハこちで優まはるる朝絵の
 君ハ日真先又はるる内田三郎季吉るると敵將鞍鞍ひまはるる遠近勢ハ
 突く和太太郎義盛ぬハ生拘らるるひりけはるる謙倉へ幸はるるハ
 失つるべしや伊豆ハ初はるる義盛ぬハ惜るる謙倉ぬハおまじし妻と迎へ
 とるる人情縁恩義ハ鮮はるるその意又随ひるるひりりとも臥房とともハ
 老ぬるる義盛ぬハ彼君の心操はるる感嘆はるるその名をるるの妹脊川委ぬ月

日なをこましくおん為誕生者ハとるる且ハ披あせはるるその年の冬云云と入るる告て
 阿三丸と名けはるる血をとり子とるる寵愛者ハとるる偏ハ母公の勇力ハ兼ハ
 嗣せはるるる比こはるる里めてその名を小蔓と名けはるる女の子ハ
 産はるる世渡る梅のまらこはるる後ハ夫と竊ハ絞合しハ件の小蔓ハ我襦袢の
 中ハ人ハ取はるるるるる乳房を售ハるる謙倉ハ藤宿をハるるハつるるハたの
 おん為ハ乳母ハはるるるるハおん為ハ襦袢ハるるハ牌疳とるるハ病ハるる
 児の神ハあはるるるる三才ハあはるるるる足ハるるるる直嘸ハ夜中日を
 こちでむらるるるるる義盛ぬハ鬱悒ハるるる母ハ前ハるる共暇とるるる未也ハ
 田の岬ハ女僧院へとるる遣ハるる法ハ首途ハ餞別ハ謙倉殿ハるる恩賜ハるる
 刀三田満仲ハ建物をるる俱利迦羅丸を取はるるるる宣ハるる切はるるる
 母君ハ堪ハるる名將勇婦の子ハるるるの戒法師ハせんハるるハ初ハるる世ハるる

死のうらむ母のちなむとむつても被戒力を振りて孺子と刺んとぬ家
 こゝろかややく推禁めく位々練なればなるふおんは放多ひく。あつたその
 子と汝とぞうせん舊里へ移て還りて夫婦が中の子と申すのあふ人となるん比
 教むべし素姓を告よ又教むべ死のうらむ実の親とも養の親とも絶く
 志すをぶらばけりてしてこがよの陰は悪く護らんむとあつた申す人
 俱利迦羅の戒力をりておん腹へぶさつた立ち多ひゆけし當下送云精細
 この戒刀ハ養父の像見母ハ鮮血を流すし又この指ハ實の父君木曾殿のおん
 旗のしとゆえまじしとまじし一毫のまじしと申す人とも血をりて指は書
 ざらこの二種の汝は領人阿三九が人とあり勇士とて死のうらむひつりて
 他へ取らせよ志すまじしと申す謙倉殿と父の仇とてあつた死心積りと思ひ
 ある美盛ぬ一死連係せん忠孝の道鉄ぬぐ。只ひらまても被入を實の親と

死してその勇の武勇世おちるる百とさる時を候よりや美盛とが死を憐れ
 むひえさせめふともそが保つる養れて生涯恥我雪すうほいへ死すのうらむ
 ちてと左の孺子を引つりて右の死瘡口へさへ入る。五臓を解き引出し
 孺子の鮮血を洗ひけく。あつたひらくるまじり浅ましとも長いた比んおんぬね
 ども申す死すらぬ人なる一死連係せんともあつたけいば志我殿とて記念の二種膚小
 附路費めせよと賜は財布我腰は結びそえと孺子を背負ふ腫黒まき去
 らんと志す折ら。絆を名竊めひらんあふの恥の後方する。浪門飛越と推ひ死
 めの乳母とまのれこが非をとりぬ可惜勇婦小自殺させよその子とまじし既ハ親
 子の義を結ぶ義盛が瑕瑾入中よとまじしとゆえの死体の態と後門に
 信しと走ると去その曉とて武勇の金澤と赴死す。津我水折清肉の老
 堂要目越獸六郎といふ人の死大ぬりて野追兵は思ふまじし引復さるるひら

怪しむにこの時は昏老とす。一子孺子の極又ちあつた。近頃の人の
 搔痒は。碑より多く。ちぬ物のいふさむむのびく。罵り懲りぬおんこを怪
 カ小戦慄は。獸六郎本。立足もろく。後飛ぶるまで。逃去ぬむは。金澤の
 野嶼が。崎より便好く。舊里へ。恨一なる。せ痒の。数良人の。牛馬。子。一。多。多。母
 の。容體。さ。ぬ。他。の。み。た。す。あ。る。死。く。お。宣。ひ。ひ。と。健。小。月。多。い。ご。ら。ん。あ。入
 豊二。由。恩。愛。月。之。年。の。い。や。ま。せ。ほ。の。親。が。ひ。も。る。死。士。百姓。の。あ。り。い。ん。度。訓。由
 学の。道。も。ま。後。び。て。そ。の。お。し。藝。云。び。ら。あ。せ。け。る。餘。力。の。は。や。や。満。祿。の。山。寺。へ
 登。一。の。せ。ま。書。を。入。る。も。く。小。ま。たり。う。づ。下。山。の。ち。の。田。の。畑。の。稼。の。と。た。り。物。の
 本。筆。と。の。り。の。あ。り。袴。の。刺。衣。は。肌。膚。を。あ。り。く。肉。を。牛。馬。の。さ。ま。ま。く。小。孝
 行。ゆ。て。の。り。の。び。飲。く。と。と。良。く。の。情。由。代。端。ろ。く。告。る。と。折。了。を。や。と。侯。ひ。も
 ろ。く。豊。六。の。社。屈。小。命。さ。ま。ま。く。失。と。餘。の。殃。ら。く。小。係。ま。て。一旦。玉。の。緒。終。果。付
 ら。び。と。正。の。り。の。あ。り。又。如。此。ぞ。お。ん。か。小。告。ゆ。ら。ん。あ。り。く。お。ん。力。を。連。係。せ。れ。ら。く。
 應。が。あ。る。と。ま。ま。が。十。四。五。年。の。苦。死。他。ろ。く。死。て。ら。母。御。前。執。給。の。君。へ。ま。り。祝
 つ。ら。ま。あ。る。と。只。下。さ。ら。小。さ。ひ。決。め。て。ま。て。良。人。は。後。と。な。り。あ。ら。は。慈。由
 形。の。死。の。哀。と。懸。念。せ。び。ご。ら。ん。素。と。る。と。村。為。小。生。中。月。八。人。の。ろ。婦。乃
 道。の。あ。り。と。三。年。の。間。給。事。して。と。せ。よ。あ。り。せ。よ。云。と。朝。夕。々。々。の。小。母。御。前。が
 教。導。せ。ら。れ。せ。ら。る。恩。惠。小。習。治。ひ。松。の。標。小。竹。の。直。浪。速。の。浦。の。り。あ。り。我
 此。も。辨。は。る。と。ち。ち。ち。ち。掃。く。今。宵。あ。る。と。く。お。ん。力。と。ご。ら。ん。の。親。小。坊。を
 子。で。ま。す。あ。ら。は。罪。由。出。と。は。り。像。見。の。二。種。携。り。夜。ふ。ら。小。坊。に。使。給。し
 と。く。鎌。倉。へ。赴。た。り。養。父。君。小。名。告。り。身。を。立。め。入。具。竹。の。り。小。形。の。六。二。の。り
 の。ご。ら。ん。の。由。士。の。妻。ろ。く。潔。く。自。害。して。良。人。は。追。つ。死。付。ら。ん。又。死。く。と。云。ふ。り
 生。く。又。云。ふ。り。死。及。唇。と。剪。捨。く。身。の。あ。ら。は。と。旅。と。る。客。小。命。の。限。り。廻。圖。して

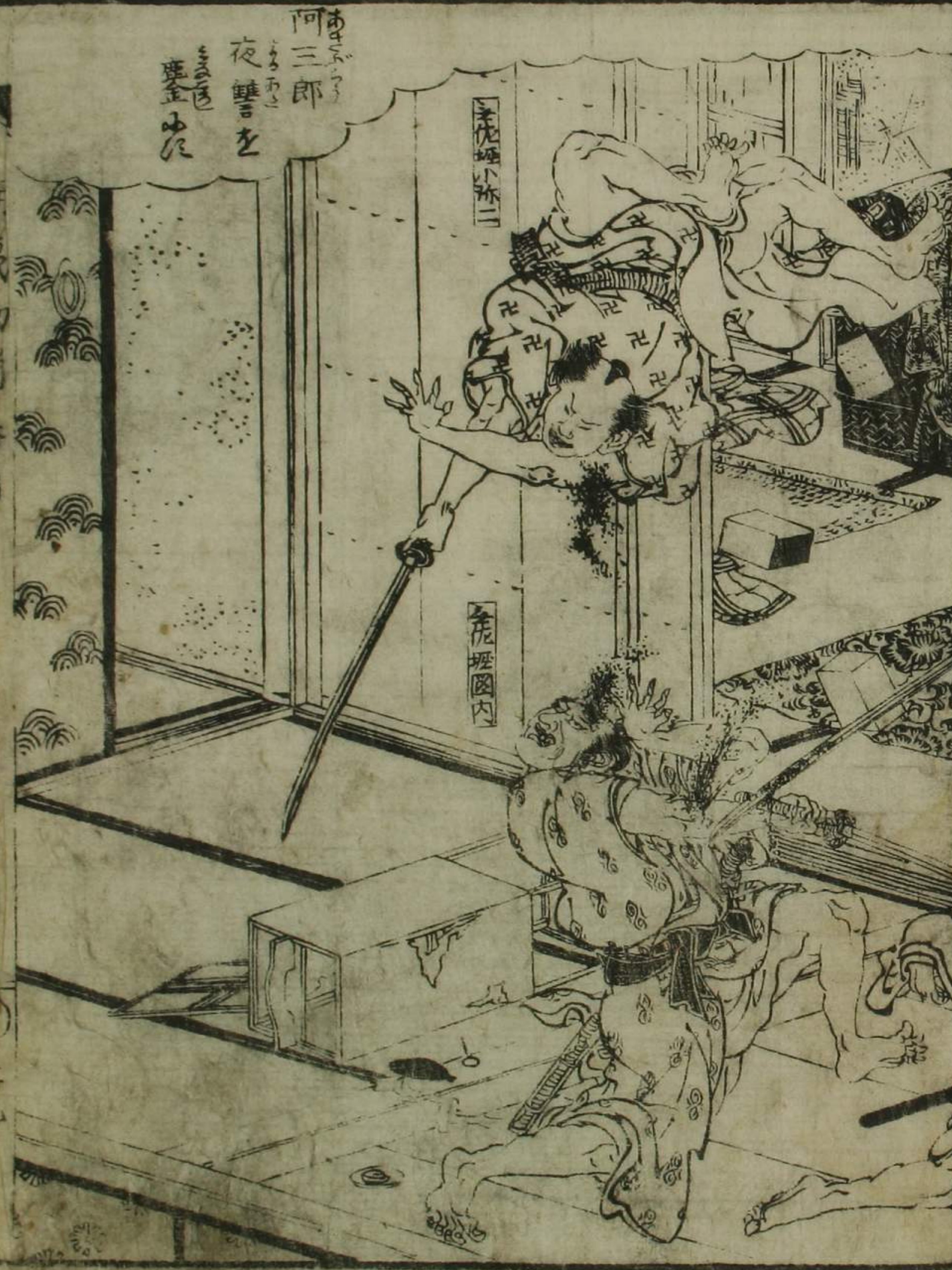
ら。び。と。正。の。り。の。あ。り。又。如。此。ぞ。お。ん。か。小。告。ゆ。ら。ん。あ。り。く。お。ん。力。を。連。係。せ。れ。ら。く。
 應。が。あ。る。と。ま。ま。が。十。四。五。年。の。苦。死。他。ろ。く。死。て。ら。母。御。前。執。給。の。君。へ。ま。り。祝
 つ。ら。ま。あ。る。と。只。下。さ。ら。小。さ。ひ。決。め。て。ま。て。良。人。は。後。と。な。り。あ。ら。は。慈。由
 形。の。死。の。哀。と。懸。念。せ。び。ご。ら。ん。素。と。る。と。村。為。小。生。中。月。八。人。の。ろ。婦。乃
 道。の。あ。り。と。三。年。の。間。給。事。して。と。せ。よ。あ。り。せ。よ。云。と。朝。夕。々。々。の。小。母。御。前。が
 教。導。せ。ら。れ。せ。ら。る。恩。惠。小。習。治。ひ。松。の。標。小。竹。の。直。浪。速。の。浦。の。り。あ。り。我
 此。も。辨。は。る。と。ち。ち。ち。ち。掃。く。今。宵。あ。る。と。く。お。ん。力。と。ご。ら。ん。の。親。小。坊。を
 子。で。ま。す。あ。ら。は。罪。由。出。と。は。り。像。見。の。二。種。携。り。夜。ふ。ら。小。坊。に。使。給。し
 と。く。鎌。倉。へ。赴。た。り。養。父。君。小。名。告。り。身。を。立。め。入。具。竹。の。り。小。形。の。六。二。の。り
 の。ご。ら。ん。の。由。士。の。妻。ろ。く。潔。く。自。害。して。良。人。は。追。つ。死。付。ら。ん。又。死。く。と。云。ふ。り
 生。く。又。云。ふ。り。死。及。唇。と。剪。捨。く。身。の。あ。ら。は。と。旅。と。る。客。小。命。の。限。り。廻。圖。して

と申す直し。下より刀尖まゝ。赤く。うち。瞬もせ。熟視。天暗。穢物
 焼刃。送る。鮮血。母の。像。之。猶。といひ。あ。く。ど。臉。を。ぐ。ら。た。難。小。納。め。て。腰。小。帯。入。旗
 指。を。推。却。た。思。致。り。親。と。せ。よ。美。小。仗。友。垣。待。べ。と。我。兼。り。の。ハ。君。四。海
 みる。兄。才。を。勉。ま。う。と。血。を。凍。く。写。せ。ま。ひ。一。教。訓。目。今。母。小。面。り。物。い。ら。ふ
 異。る。と。一。言。ゆ。て。長。を。尺。を。半。句。と。ま。ま。由。岷。山。の。片。玉。み。く。と。賈。也
 ち。ん。母。の。志。料。と。思。意。一。符。合。せ。る。と。ま。ま。が。美。小。仗。恩。は。答。へ。今。宵。純。仏。船。堀
 等。と。聖。め。く。怒。は。復。ひ。母。を。脊。負。く。他。郷。へ。走。り。時。を。ま。く。と。旗。指。を。襟。よ
 と。ま。て。立。あ。る。志。言。結。面。を。身。の。運。動。自。然。と。信。す。勇。士。の。本。體。現。長。仲。の。落。胤。朝
 絵。子。と。く。目。光。一。た。葉。の。慌。忙。た。く。杖。小。推。引。と。ま。り。小。物。投。入。盗。む。た。人。窟。を
 竊。と。し。と。世。給。め。り。か。今。そ。ま。赤。氏。の。背。小。あ。ら。さ。せ。け。り。能。あ。る。奪。取。を。隠。と
 い。の。程。小。習。得。し。又。学。び。藝。術。ち。う。う。と。入。世。由。入。心。を。よ。め。り。恩。義。の。為。は。怒

あ。る。後。賊。勢。果。さ。ん。と。思。ふ。は。り。の。外。ゆ。と。ま。ま。有。り。た。ま。く。二。行。と。直。致。と。ら。し。と
 ま。う。は。あ。ら。ぬ。と。難。堀。ハ。眼。代。小。禄。り。と。も。家。属。と。ま。ま。と。教。導。の。所。可。移。を。く。
 千。金。の。身。を。喪。ひ。ゆ。り。それ。お。孝。と。由。美。と。い。ひ。の。目。強。く。彼。知。へ。秘。死。ま。う。と。ま。ま
 ち。眼。前。刃。小。伏。し。後。の。勢。を。せ。し。と。阿。三。郎。が。腰。刀。小。は。我。掛。ま。ま。短。慮。ハ
 假。令。今。養。父。の。怒。を。復。さ。と。母。を。殺。し。何。ふ。せん。と。ま。ま。棟。小。後。ひ。て。誘。り。た。ま
 出。ま。へ。とい。ふ。は。我。が。ち。掉。し。こ。ら。ら。鮮。と。る。所。と。死。ハ。お。ん。が。進。退。不。使。小。信。り
 白。子。の。浦。を。使。船。く。相。撲。時。に。い。り。こ。ら。ら。と。ま。ま。越。し。上。総。乃。由。こ。へ
 赴。け。た。ん。乞。食。と。し。ゆ。旅。さ。る。小。路。費。あ。ら。ぬ。輕。護。よ。あ。ら。る。雜。具。小。代。り
 調。う。こ。の。恨。と。こ。ら。ら。あ。ら。せ。づ。ん。と。由。り。て。去。り。し。後。と。處。を。推。辞。し。ま。ま
 さ。ら。し。且。く。受。く。潜。中。小。袱。包。小。卷。籠。く。と。ま。ま。母。の。脊。小。負。せ。物。と。ま。ま。送。り。た。ま
 志。や。聊。お。の。う。志。致。詩。へ。と。ま。ま。母。の。意。の。稱。後。バ。せん。と。ま。ま。せ。め。く。上。総。の。堀

中かき送るあつせん。と云ふも。それ由火急の旅の程に許されし。いりんは。さうか。か。
 かつふむ。その教ひあり。今東西より。さう。何れの。冬。れ。よ。の。ま。は。九。朝。拾。の。尾。と。
 名。告。の。り。再。入。の。役。多。と。う。る。ま。か。ん。加。以。十。餘。年。養。育。の。恩。産。育。の。恩。ゆ。え。の。
 母。を。為。せ。ら。る。魚。後。日。其。が。人。ま。た。も。あ。る。ん。時。反。哺。を。受。く。ら。う。が。今。
 の。別。の。の。あ。ら。う。と。成。環。あ。日。小。也。ひ。え。く。命。お。惜。り。ゆ。ら。と。他。の。る。く。い。ん。物。体。
 う。る。假。ゆ。古。主。の。名。を。犯。さ。ら。し。と。憚。あ。ら。う。ら。ま。じ。と。も。あ。ん。が。ご。公。中。り。ゆ。も。た。ら。ん。が。
 そ。は。も。ご。推。辞。さ。し。そ。の。も。あ。く。も。ま。存。ん。夜。の。途。ぬ。同。は。出。る。人。住。申。馴。ら。る。
 宿。の。う。ら。遠。且。居。の。ゆ。あ。ぶ。て。を。名。残。の。程。と。う。ら。も。後。と。う。ら。の。あ。ら。ん。小。葛。又。か。ら。り。
 親。を。ご。せ。ら。ら。い。か。つ。め。く。上。総。の。う。ら。ま。来。入。の。難。ひ。と。せ。仕。を。ぬ。る。その。名。を。
 今。ふ。と。し。ゆ。た。は。東。金。の。橋。六。と。い。ふ。商。旅。と。せ。つ。居。が。今。上。総。又。と。う。ら。ま。と。を。往。
 方。定。く。ふ。老。を。せ。ね。ば。務。が。ゆ。と。な。ら。ぬ。と。禮。身。囊。小。納。ら。る。晴。帯。は。生。正。年。月。
 元。暦。元。年。七。月。十。日。小。葛。又。産。毛。晴。帯。と。名。が。ゆ。迹。を。記。し。く。あ。ら。ん。あ。ん。が。か。ら。ま。れ。
 め。い。ゆ。その。月。ゆ。く。日。の。く。り。謙。倉。あ。は。京。あ。あ。ら。ん。ま。ま。と。た。た。く。ゆ。い。り。

した。人。あ。い。あ。ら。と。い。ひ。ひ。け。嘆。息。噫。と。ま。百。復。言。愚。癡。あり。た。十六。七。年。え。え。と。て。
 往。方。も。ま。ら。ぬ。女。児。が。う。の。方。の。う。れ。時。ハ。下。ハ。お。も。ひ。出。し。ひ。出。し。く。ゆ。え。が。足。成。と。ち。
 して。母。の。言。を。甲。夜。の。間。と。く。浦。辺。に。妻。を。多。と。い。ま。じ。ま。ま。が。阿。三。郎。の。意。に。ゆ。ら。の。ま。
 出。せ。ざ。せ。あ。の。一。里。が。程。の。う。ら。た。送。り。て。あ。ら。し。い。ん。の。成。成。も。ち。掉。て。復。し。ゆ。ゆ。
 こと。は。ほ。お。ん。が。う。と。そ。い。と。い。う。心。り。と。く。ゆ。ら。れ。ゆ。ら。が。送。り。ゆ。ら。ゆ。ら。い。ゆ。ら。ん。
 不。白。と。い。は。詮。な。ら。る。な。ら。ん。一。時。さ。う。と。い。ハ。出。給。の。と。送。は。い。り。ゆ。ら。ゆ。ら。小。讓。お。ハ。言。を。
 中。頼。ゆ。け。ん。と。い。音。を。一。門。の。戸。と。引。開。け。裡。面。よ。ら。の。り。の。庄。司。暇。の。一。人。親。子。の。縁。
 一。く。え。り。と。遠。く。中。迎。へ。定。め。お。ん。が。う。清。く。ぬ。教。訓。は。ち。り。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ま。ま。た。た。ゆ。ら。
 且。ご。由。面。り。小。飲。び。飲。進。し。別。と。告。る。ふ。し。と。あ。ら。ん。ち。敷。な。く。い。い。ゆ。ら。ゆ。ら。三。段。の。へ。ま。



草子

この期小及び口笑の益母の吾情が素肉に便宜の里に送りて暮るる親
 り共は遂ておん却危し阿三郎へ今宵の出船は乗後まで後悔しとて
 急げと葉舟を扶掖つ門口阿三郎も裾を折りぬる共立ゆればとて
 告別言の中鼻息を宵周小彦引立去る去人の情と母の恩海と山崎の源のそ
 阿三郎ハ心の中にて要時其方を目送りけり此の葉舟の四の靈山
 地を残す編歴果の信濃より九十九餘歳の上壽をとり和合戦の
 後ヤも納絵の尼とて彼阿三郎ひとありとて阿三郎ハ母のそ
 と心の中養父の仇とる尼眼代ホを替むらり立去りてと豫て
 宿所へ送り潜び入り野の仇を殺陣せその圖ハふと入るの物結長
 ちるるにふりたるの條を更く第五の巻のそふと入るの端をむく
 終

朝夷巡島記全傳卷之四

吉田屋



朝夷巡島記
 全傳卷之四
 吉田屋

